

# 令和5年度 ふくしま学力調査結果資料

## 1 調査の概要

(1) 調査日時 令和5年5月11日(木)～5月25日(木)

※ 各学校が期間内の任意の日に実施

(2) 調査内容

○ 小学4～6年 国語、算数

○ 中学1・2年 国語、数学

○ 生活習慣や学習環境等の質問紙調査

(3) 調査対象 (人)

【小学校】

	小4年国語	小4年算数	小5年国語	小5年算数	小6年国語	小6年算数
福島市	2,018	2,019	1,776	1,775	1,903	1,900
福島県	13,786	13,786	12,831	12,829	13,291	13,284

【中学校】

	中1年国語	中1年数学	中2年国語	中2年数学
福島市	1,870	1,868	1,895	1,896
福島県	13,441	13,440	13,096	13,092

## 2 教科に関する調査の結果(本市と県の平均正答率及び学力レベルの比較)

【小学校】		本市 (ア)		福島県 (イ)		平均正答率 比較 (ア-イ)	学力レベル 比較 (ア-イ)	学力の伸び 前年と比較
4年生	国語	64.9	6-B	63.8	6-C	+1.1	+1層	/
	算数	64.8	5-B	63.2	5-C	+1.6	+1層	
5年生	国語	64.0	7-B	62.3	7-C	+1.7	+1層	+5層
	算数	64.8	6-B	62.2	6-C	+2.6	+1層	+3層
6年生	国語	62.8	7-A	61.3	7-A	+1.5	同じ	+3層
	算数	58.4	6-A	56.8	6-B	+1.6	+1層	+2層
【中学校】		本市 (ア)		福島県 (イ)		平均正答率 比較 (ア-イ)	学力レベル 比較 (ア-イ)	
1年生	国語	65.8	8-C	64.3	8-C	+1.5	同じ	+2層
	数学	57.9	7-C	56.8	7-C	+1.1	同じ	0
2年生	国語	63.1	8-A	60.8	8-B	+2.3	+1層	+2層
	数学	57.5	8-C	56.3	7-A	+1.2	+1層	+1層

### 3 本市の内容別結果（○県を上回っている主な内容 ●課題となる主な内容）

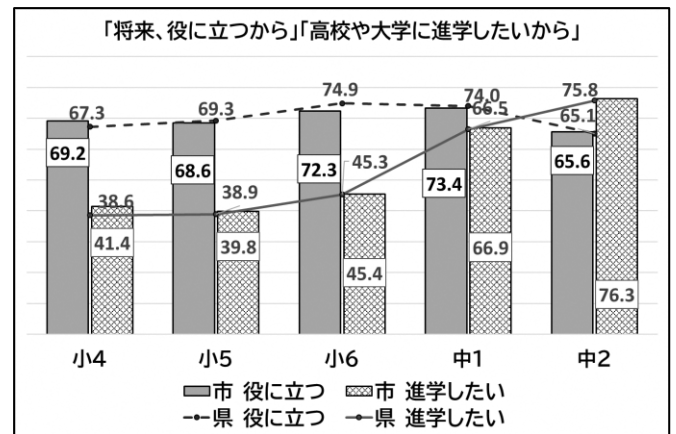
<p>小4年 国語</p>	<p>○文の構成（主語・述語）の理解 ○文を読み返し、常体・敬体の不統一を正し、よりよい文にすること ●文脈に沿った漢字の正しい読みや送り仮名の付け方、漢字のへんやつくりを理解すること ●修飾・被修飾の関係を理解すること</p>	<p>小4年 算数</p>	<p>○長さを測定する計器の読み方の理解 ○表を正しく読み取り、目盛りに数を当てはめて、棒グラフを完成させること ●3位数と2位数の乗法を計算すること ●時刻の求め方を考え、問題を解決すること</p>
<p>小5年 国語</p>	<p>○呼応の副詞を理解し、適切に使うこと ○考えを伝えるときに必要な事例を挙げること ●文脈に即して漢字を正しく使うこと ●言葉の意味と様々な使い方の理解</p>	<p>小5年 算数</p>	<p>○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決すること ○折れ線グラフをかいたり適切に読み取ったりすること ●四則が混合した式や（ ）を用いた式を計算すること ●概数についての理解</p>
<p>小6年 国語</p>	<p>○文の構成の理解 ○伝えたいことが伝わるように資料の使い方を工夫する ●文脈に即して漢字を正しく読んだり、使ったりすること ●原因と結果の関係の理解</p>	<p>小6年 算数</p>	<p>○円柱の展開図と見取図を対応させて位置関係をとらえること ○割合についての理解 ●異分母分数の加法を計算すること ●加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること</p>
<p>中1年 国語</p>	<p>○ことわざや慣用語の意味を理解し、適切に使うこと ○聞き手の立場に立って発表の表現を工夫すること ●目的に応じて必要な資料を見つけること ●古文の内容を知ること</p>	<p>中1年 数学</p>	<p>○示された条件から、対応するグラフを判断すること ○平面図形の面積を求めること ●代表値を見て、データの特徴を読み取ること ●逆数についての理解</p>
<p>中2年 国語</p>	<p>○文脈に即して漢字を正しく書くこと ○文節の関係や体言・用語を理解すること ○対象者との関係をとらえ、正しい敬語を使うこと ●漢字の音訓読みの理解</p>	<p>中2年 数学</p>	<p>○与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現すること ○空間図形の構成要素についての理解 ●文字式に数を代入して、式の値を求めること ●素因数分解についての理解</p>

## 児童・生徒質問紙調査の主な結果

### ○「勉強する理由」について

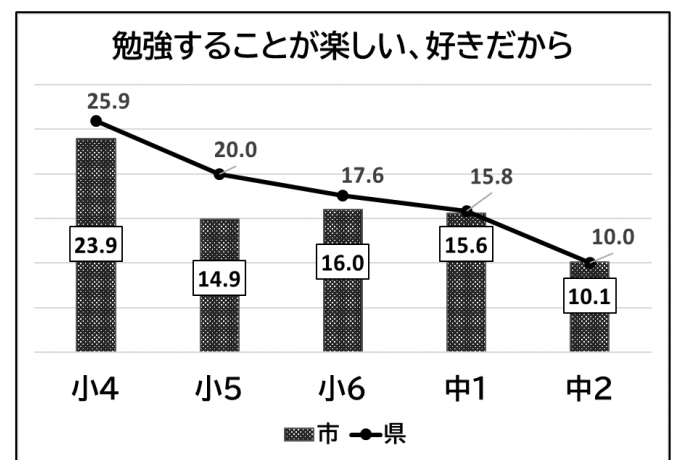
勉強する理由として回答（複数回答）した割合が高い項目は、「将来、役に立つから」や「高校や大学に進学したいから」で昨年度と同様でした。「高校や大学に進学したいから」については、学年が上がるごとにその割合が高くなり、全体的に昨年度より高くなっています。

「勉強することが楽しい、好きだから」を選択した児童生徒の割合は、小学4年生が最も高く、学年が上がるにつれて、割合が低下していきます。県平均と比較すると、どの学年においても下回っています。

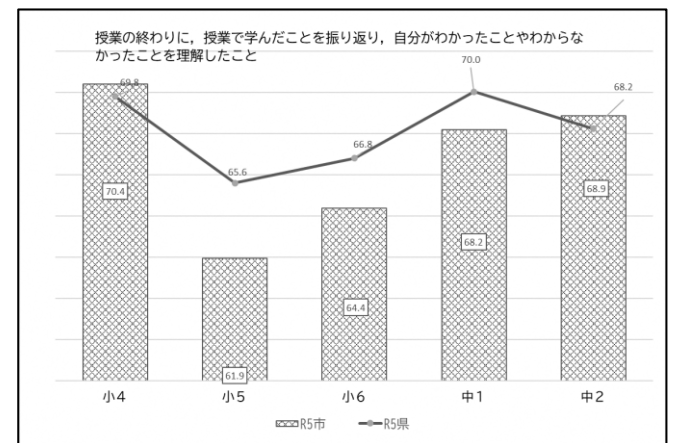


### ○「授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したこと」について

「よくあった」「ときどきあった」と答えた割合については、学年ごとにばらつきがみられ、県平均と比較すると、小学4年生と中学2年生で上回っていました。小学5年生と6年生では、県平均を2～4ポイント下回りました。前掲の「勉強することが楽しい」のグラフと同様の傾向が見られることから、授業における「振り返り」の充実との間に相関があるといえます。



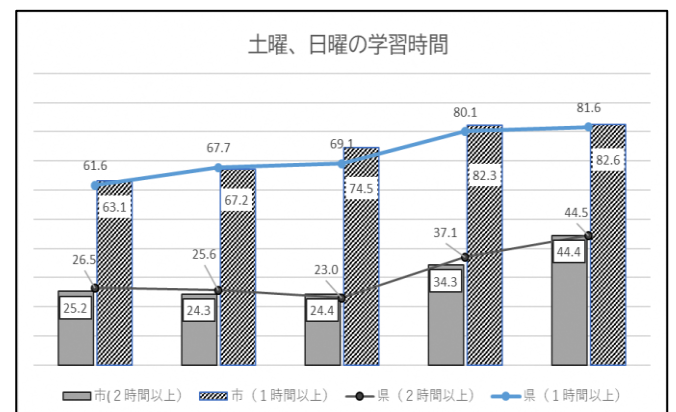
それぞれの授業の終末において、「振り返り」の時間を確保し、「できた」「わかった」ことを明確にさせることで達成感や成就感を味わわせたり、その授業でわからなかったことを次の学習につなげさせたりすることをおして、一人一人に「学ぶ楽しさ」を実感させることが大切です。



### ○土曜、日曜など学校が休みの日の学習時間について

学校が休みの日に2時間以上学習している児童生徒の割合は、県平均と比べてやや下回っていますが、1時間以上行っている割合は上回っています。

また、「全くしない」と答えている割合は、全ての学年で県平均を下回っていました。



データから、家庭学習の習慣はほぼ身に付いているといえます。「家庭学習スタンダード」や自校で作成している家庭学習の手引き等をもとに、学校と家庭が連携しながら、子どもの発達段階に合わせた家庭学習の量的確保と質的改善が図れるよう、継続して指導していくことが大切です。